

# 令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

## 【歯学部】

### ①学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和3年5月18日	昨年度の歯学部CHAmmit参加学生，歯学部学務委員会委員長・副委員長，歯学部FD委員長，学生FD支援小委員会委員長・副委員長，教務課幹事の計9名がZoomを使用したハイブリッド方式（学生は自宅からZoom参加）にて，学部提案書について50分程度，実現に向けて意見交換を行った。

### ②改善点について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
・オンライン環境の整備・基準・提示・周知徹底について (出席フォームが送れない等，大学側のネットワーク不備による混乱が発生しないようにしてほしいという学生の意見)	○			歯学部では以下の取り組みを実施し対応している。 ネットワーク不備に関しては，予期できない障害によるもので避けられないため，対応はできないものであるが，こうした予期できない（避けられない）障害が発生した場合には，柔軟に出席を受け付けるよう対応している。また，学生側のネットワーク不備については，何らかの方法で大学へ連絡するよう指導している。 また，例えば学生が出席フォームの送信ができないなどの教員側のミスやスキル不足による不備に対しては，教員用遠隔授業ポータルサイトを立ち上げ，出席フォームの作成方法や種々のアプリケーションの利用方法を解説する動画を掲載するなどして，教員へ周知を行っており，昨年に比べ，確実に不備を減らしてきている。
・シラバス，スケジュールの再構成 (昨年度は対面授業から遠隔授業に代わった関係で，評価方法等シラバス記載内容に変更が生じ，学生が混乱することがあった。また，講義から3日後に試験を行う講座があったという学生の意見)	○			歯学部では以下の取り組みを実施し対応している。 昨年度はシラバス策定後，新型コロナウイルスが発生したため，急なシラバス記載内容の変更，学事日程の変更，定期試験の廃止等が発生した。 しかし，今年度は初めから講義は遠隔主体，実習は対面で行うことを前提にシラバスを策定し，学事日程を作成しており，対応できている。また，今年度は，学生が学外からいつでもどこでもシラバスやスケジュールを確認できる環境も整えている。
・時間割の共有 (先生同士の連絡不足がある。グーグルカレンダーで学生・教職員で時間割が共有されているが，例えば，この日は午前午後とも対面授業があることを知らない先生がいた。この日はどういう流れで授業が行われるか把握してほしいという学生の意見)	○			歯学部では以下の取り組みを実施し対応している。 昨年度は，一部教員間において共有ができていなかったことがあったが，今年度は，始めから対面授業と遠隔授業の日程を分けて学事日程やシラバスを策定しているため，教員同士も時間割を共有しており，対応できている。
・授業専用のソフトウェアの作成		○		昨年度は途中でGoogle MeetからZoomに移行したため，一部の学生を混乱させたかもしれないが，今年度はZoomに統一した。 授業運営のソフトウェアやプラットフォームを学部独自に作成することは技術的にも難しい。 一方，教務・授業運営に関わる包括的なLMSを導入すれば，他項目で挙げられている出席管理，連絡，課題の提出，資料の配布方法も統一でき，学生にとってより快適な遠隔授業を運営が可能となると予測される。今後のコロナの状況により，授業実施方法の変更も考えられるが，継続してLMS導入の検討は行ってゆく予定である。

# 令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

## ③今後の要望について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
<p>・出席のカウント・雑音対策                      (昨年度後期は出席フォームを送信する時間が決められていた。出席確認方法の統一はできないかという学生の意見)</p>	○			<p>歯学部では以下の取り組みを実施し対応している。                      昨年度後期は、学生からの希望に対応し、出席確認方法を統一（授業開始前後10分以内に出席フォームを送信）したが、その結果、出席フォームを送信したのみで、その後、授業を受けていない学生が一部見られたことも事実である。こうした状況を踏まえ、今年度は各講座（教員）ごとに出席の取り方を一任する方法をとっている。</p>
<p>・課題の提出形式の統一                      (課題の提出方法として、メール・クラスルーム・ドライブと3つの方式での課題提出方法があり、どれを使用するかは担当教員に任されているため、学生にとって分かりにくく複雑であるとの意見)</p>		○		<p>現在、第1学年において、課題の提出方法について新しい方法を試行中である。この方法が効果的と分かれば、他学年においても導入を検討する予定である。</p>
<p>・オンライン講義の費用を大学が負担</p>	○			<p>日本大学創立130周年記念奨学金、学費の納入時期の猶予、学修環境補助費として一律3万円の給付、在学生の各種証明書の申請手続の簡略化及び発行手数料・郵送料の免除、電子端末に関する相談窓口の設置、台数に限りはあるもののPCの帯出等を行っている。歯学部ではこのような取り組みを実施し対応してきたが、学生は自宅で学んでいるため、掲示でなく歯学部H.P.にて告知している。</p>
<p>・連絡や教示や配布方法の統一                      (課題等授業資料の提供方法について、メール・クラスルーム・ドライブ・グーグルカレンダーの4つの方法があるため、わかりにくく複雑であるという学生の意見)</p>		○		<p>後日、学務委員会委員長、副委員長、FD委員会委員長、FD委員会委員、遠隔授業小委員会委員長が参集し、連絡・配布方法の統一について種々検討を行った。                      改善すべき重要な問題であるとの認識で一致したものの、連絡・配布方法の統一は、各教員の授業実施方法に関わり、また、教員全員がそれを直ちに実行できるかという問題が予想される。結果的に、現行の授業運営に支障をきたす恐れがあり、にわかには解決できる問題でないとの結論に至った。                      ただし、上記のとおり、改善すべき重要な問題であるとの認識は一致しており、今後、現状把握を行うとともにある程度の方針を示すべく検討を行ってゆく予定である。</p>

## ④改善や要望を受けて、歯学部から学生へのメッセージ

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業日程・実施方法に大きな変更が生じざるを得なかった。例えば、第5学年の臨床実習の様に、どうしても対面で実施しなければならない授業にも大きな影響をきたした。

しかし、こうした状況下においても、歯学部として十分な教育を実施することについては、何としてもやらなければならないと考えており、昨年度の経験を踏まえ、教育方法の改善を行っている。今後もできるだけ学生の不利益にならないように、十分な教育を実施したいと考えているので、そのために、また学生皆さんの力を貸してもらいたい。